

著しい水温躍層が形成され、下層水温は「低め」で推移

(平成22年7月の海況と今後の予測)

1. 本県周辺海域の概況

- ・今月の海況の概要は図1のとおりです。
- ・三陸から常磐北部沿岸域には南下流が卓越しており、北方の冷水が沿岸域を断続的に南下しています。
- ・三陸南部海域には暖水塊が形成されています。
- ・黒潮はN型(直進流路)で推移しており、7/9現在、犬吠埼の東90マイル付近を北東へ流去しています。

2. 海洋観測結果(7/5~7/7:いばらき丸)

- ・海面から水深200mの水温を図2~図5に、水深100mの前月差を図6、平年偏差を図7、塩分を図8に示しました。
- ・沿岸域を中心に本県全域で著しい水温躍層が形成されました(図9)。
- ・水温を前月と比べると、ごく沿岸域や海面付近などを中心に大きく昇温しました。一方で、海面直下の水深20~30m以深は著しく降温しました。平年と比べると海面付近は高めでしたが、その直下の水深20~30m以深は沿岸域を中心に低めでした。(図10~図11)。
- ・沿岸域の流れは概ね1ノット未満の逆潮でした。(図12)。

3. 今後の1カ月の見通し

- ・黒潮流路はN型もしくはB型(遠州灘沖で蛇行)で推移し、本県海域への暖水波及はあまり強くないでしょう。
- ・北方から冷水や暖水が断続的に波及するでしょう。
- ・水温躍層は今後も形成されるでしょう。
- ・水温を平年と比べると、水深100mでは「低め~平年並み」で推移するでしょう。ただし、北方から冷水や暖水が波及した場合は一時的に変化がみられるでしょう。

